

## &lt;地域公共交通計画の評価等結果の様式&gt;

資料1-2

西尾市地域公共交通計画の評価等結果（平成28年6月～令和3年11月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
日常生活で移動に不便を感じている市民の割合を減少 H28 39.9%→H32 35%	・バス交通の再編 ・いこまいかーの制度見直し	アンケートを実施し、調査	・52.1%（R3.8西尾市総合計画に関する住民アンケート調査） ・不便に感じる割合は増加したが、R3.6の公共交通計画作成のための市民アンケートおよび利用者アンケートでは、バス再編によって「便利になった」との回答が「不便になった」よりも多い。また、市民アンケートにおける同様の質問では、不便に感じると回答した人は17.5%であり、大きく乖離している。本指標は道路の不便さなどの公共交通以外の要因が含まれていると思われる。	・数値としては未達成。ただし調査方法のアンケートでは、市民の意識が変化し一定の基準で評価することが難しいことから、市民の意識によらない定量的な評価を次年度策定予定の西尾市地域公共交通計画では指標としていく。	目標指標として利用者数、収支率を設定予定
公共交通機関の年間利用者数の維持・増加 （数値目標については別紙1参照）	・別紙2参照	各事業者の有する乗降データを用いて計測	・数値については別紙1参照 ・調査年度である令和2年度はコロナ禍と重複したため利用者数減に大きく影響している。6月以降は通学利用がある程度戻ってきたが、年間を通しておでかけ利用や観光利用の減少の影響が大きい。 ・いこまいかーが目標を達成できたのは、デマンド方式からタクシー補助方式へ転換したことによるコロナ感染リスクの減少から、他の乗合の公共交通機関よりも利用が落ち込みにくかったことも考えられる	・コロナ禍という厳しい状況により、いこまいかー以外のすべての市内公共交通機関において目標未達成となった。 ・主に減少した理由は感染リスクを避けるためと推測され、通勤通学などよりも日常のおでかけ利用や観光利用が大きいとみられる。感染対策への取り組みPRや観光周遊ネットワークの形成及び情報提供など、ウィズコロナ&アフターコロナを踏まえた取組による利用者の回復を目指す。 ・コミュニティバスについては、現状のサービスを維持あるいは充実を求める意見が多く、利用者数を確保し維持していく必要がある。そのため、最低維持基準を設定し、原則2年連続でクリアできない及び沿線地域で利用促進の取り組みが行われない場合は、減便やデマンド化等の縮小を検討する。ただし、コロナの影響については必ず考慮する。 ・民間路線バス等についても、事業者と連携した利用者確保への取り組みが必要である。	

(記載に当たっての留意事項)

- ・本様式中、表題の「(〇年〇月～〇年〇月)」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- ・毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- ・一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- ・月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- ・地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。

	目標値の理由	目標値(R2)	実績値(対目標値)	結果(達成率)
名鉄西尾・蒲郡線	H27から毎年2%増加	3,673千人	2,595千人 (▲1,078千人)	未達成 (70.6%)
六万石くるりんバス	H26から毎年10%増加	198千人	162千人 (▲36千人)	未達成 (81.8%)
いっちゃんバス	1便5人以上	17,950人	2,724人 (▲15,226人)	未達成 (6.6%) ※運行当初はボンチョ車両 現在はハイエース車両
いこまいカー	H27から毎年10%増加	1,680人	3,125人 (+1,445人)	達成 (186.0%)
名鉄東部交通バス (幹線, R2. 4一部廃線)	H27実績を現状維持	443千人	375千人 (▲68千人)	未達成 (84.6%) ※R1は472千人で達成
ふれんどバス(幹線)	H27実績を現状維持	270千人	242千人 (▲28千人)	未達成 (89.6%) ※R1は304千人で達成
佐久島渡船(幹線)	H26実績から毎年5%増加	200千人	186千人 (▲14千人)	未達成 (93.0%) ※R1は304千人で達成

取り組み	概要	実績等
バス交通の再編	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六万石くるりんバスを3路線から8路線に拡大</li> <li>・路線バスが廃止になった地域をカバー</li> <li>・市内バス運賃を200円均一とするわかりやすい運賃体系</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年4月再編</li> <li>・六万石くるりんバス利用者数 R1年度 115,640人 R2年度 161,684人</li> </ul>
いこまいかーのサービス設定等の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスのない吉良、幡豆地区において、自宅から商業施設・医療施設などへ直接輸送</li> <li>・コミュニティバスのある西尾、一色地区では、小学校区内の拠点的なバス停まで輸送</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年4月実施 デマンド型→タクシー補助方式へ転換 予約利便性向上や運行事業者の拡大を実現 (事業者数1社→4社)</li> <li>・吉良、幡豆地区において地区公共交通協議会との協働により目的地拡大を実施 利用人数 吉良 幡豆 西尾・一色 R1年度 1,948 24 282 R2年度 2,196 599 330</li> </ul>
新型コロナウイルス対策	コミュニティバス車内・渡船へ抗菌コーティングを実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年9月 1回目実施 (コミバス、渡船)</li> <li>・R3年11月 2回目実施 (コミバス)</li> <li>・乗降口に「抗菌コーティング実施済み」のステッカーを貼付し乗客へPR</li> </ul>
出前講座、乗り方講座の実施	民生児童委員や高齢者などを対象に、バス・いこまいかーの利用講座を実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度 3回 68人</li> </ul>
インターネット上における運行情報の提供	グーグルマップをはじめとする乗換え検索サービスでバス運行情報を提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GTFSを整備し、市内バス交通はすべてグーグルマップで検索可能</li> <li>・コンテンツプロバイダ (NAVITIME、ジョルダン、駅すばあと) へ情報提供</li> </ul>
バス位置情報・混雑情報の提供	遅延情報、混雑情報を提供するバスロケーションシステムを導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年4月から運用</li> <li>・バス待ち時の不安を低減</li> <li>・コロナウイルス感染防止策への寄与</li> <li>・国庫補助金活用</li> </ul>
キャッシュレス決済の導入	コミュニティバスへキャッシュレス決済を導入し、スムーズな乗降を実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年10月からPayPayを導入</li> <li>・R3年 8月からLINEPay対応 電子決済利用率 R2年10月～R3年3月 4.6%</li> <li>・現金との非接触によるコロナ予防効果</li> </ul>
名鉄西尾・蒲郡線の観光利用促進	SNSを活用したPR活動 観光客向けガイドマップの作製	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3月10月 Instagram、Facebookを開設 Instagramフォロワー 2,070人 Facebookフォロワー 130人</li> <li>・4種類の沿線ガイドマップを作製し、駅、駐輪場、協賛店舗に設置</li> <li>・西尾・蒲郡線PR動画を3本制作</li> </ul>

＜地域公共交通計画の評価等結果の様式＞

〇〇市（区町村）地域公共交通計画の評価等結果（〇年〇月～〇年〇月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
<p>××系統の利用者数：2000千人/年（令和元年度）→2100千人/年（令和6年度）</p>	<p>××系統の再編・他系統と乗り継ぎしやすいダイヤの設定</p>	<p>バス事業者の有する乗降データを用いて計測</p>	<p>・2030千人（令和3年3月時点） ・周辺に大規模商業施設がオープンしたことによる来訪者数増加が寄与したものの、地域住民の利用に大きな変化はなし。</p>	<p>・大規模商業施設の立地を見越した路線再編による効果は当初の予定通り達成できており、このまま推移すれば、令和6年度においても達成の見込み。 ・引き続き、再編後の路線・ダイヤによる運行を継続。 ・次年度に向け、引き続き課題となっている地域住民の利用を増やすため、地元の学生向けのバスPR活動や、高齢者割引を実施予定。</p>	<p>見直しの結果、地域公共交通計画の変更の必要はなし。</p>
<p>△△コミュニティバスに対する市の負担額：3800万円以内（令和元年度：3700万円）を令和6年度まで維持</p>	<p>××系統における、他系統との重複区間の減便・郊外一部区域までの路線延伸を通じた、地域の利用実態に即した運行への見直し</p>	<p>令和3年度普通会計決算より</p>	<p>・3650万円（令和3年度） ・系統全体の利用者数は減少したものの、運行効率化による費用減が影響し、収支に大幅なブレはなし。</p>	<p>・今年度の目標は達成。地域住民の声も踏まえ、引き続き運行を維持。 ・次年度に実施する沿線住民や来訪者への利用者アンケートも踏まえ、更なる運行効率化を検討。</p>	<p>今後、バスを廃止した場合の市の医療・福祉政策分野における追加的代替費用についても算出予定（クロスセクター効果の検証）。</p>
<p>計画において設定した目標を記載。</p>	<p>計画において定めた事業内容を記載。</p>	<p>目標の達成状況を把握するために用いた手法を記載。</p>	<p>調査時点における目標の達成状況及びその背景事情や原因について記載。</p>	<p>目標達成の有無や達成状況に対する所感及び今年度の状況を踏まえた次年度に向けての課題や次年度に取り組む事業内容について記載。</p>	<p>計画変更の必要性の有無や次年度以降に実施予定の取組等、他に必要な事項を記載。</p>